

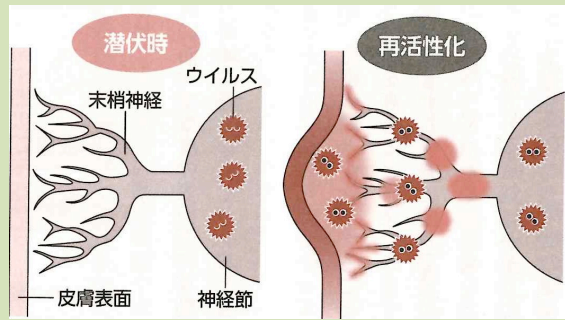
身近な皮膚疾患

ヘルペス

疲れが溜まってくると口のわきに水ぶくれができてチクチク痛む、これはヘルペスの代表的な症状です。ヘルペスはウイルスによって発症する疾患で、症例数が多いのは帯状疱疹と単純ヘルペスです。この2疾患は混同されやすいため、解説します。

ヘルペスウイルスによる感染症の共通点

- ① 初感染のあと、感覚神経の神経節などの特定部位に一生潜伏する。(死滅しない)
- ② 再活性化すると症状が出る。
- ③ 人から人へ感染する。
- ④ 親から子へ感染することがある。

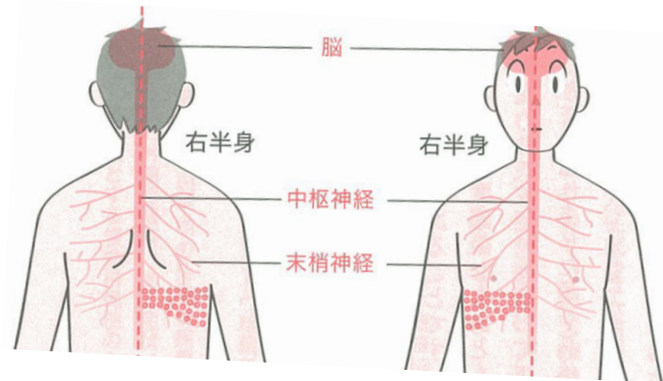


帯状疱疹の特徴

水痘・帯状疱疹ウイルスに初めて感染した場合、水痘(水ぼうそう)として発症します。症状は全身性の発疹、かゆみ、発熱が特徴です。この時、ウイルスが感覚神経の神経節に潜り込みます。水痘が治癒した後、体はこのウイルスに対して免疫を獲得しているため、免疫が働いている間はウイルスは何十年も休眠状態で過ごします。加齢や過労によって免疫力が低下するとウイルスが再活性化し、帯状疱疹として発症します。帯状疱疹の多くは、身体の左右どちらか片方の神経に沿って痛みが起こり、続いて帯状に水ぶくれが出現します。皮膚症状は通常20日程度で自然に治り、痛みも消えますが、なかには神経痛だけが残ることがあります。この痛みが3か月以上続く場合に帯状疱疹後神経痛と呼ばれます。単純ヘルペスと異なり、帯状疱疹は1度かかると再発することがほとんどありませんが、重症化することもあるため注意が必要です。

帯状疱疹と単純ヘルペスの違い

| 帯状疱疹 | | 単純ヘルペス |
|-------------------------------------|---------|------------------------------|
| 水痘・帯状疱疹ウイルス | ウイルスの種類 | 単純ヘルペスウイルスⅠ型 単純ヘルペスウイルスⅡ型 |
| 胸や背中、顔面、頭部など感覚神経のある場所に発症する。痛み・水疱など。 | 症状 | 唇や顔面、性器などに発症する。症状は軽いことが多い。 |
| 帯状疱疹はうつりにくい(水ぼうそうにかかっていない人はうつる) | 感染力 | 感染力が強い |
| 帯状疱疹後神経痛になることがある。 | 後遺症 | 後遺症はほとんどない |
| 帯状疱疹はほとんど再発しない(1生に1度) | 再発 | 一度かかると何度も再発することが多い |



治療方法・対策

帯状疱疹、単純ヘルペスのどちらの場合も抗ウイルス薬による治療が行われます。特に帯状疱疹の場合、早めに治療をすることによって治癒を早め、帯状疱疹後神経痛を予防する効果も期待できますので、症状が出たらすぐに医療機関で受診しましょう。単純ヘルペスの場合でも抗ウイルス薬によって治癒を早めるとともに、神経細胞に潜り込むウイルス量を減らし、再発リスクの低下が期待できます。

また、帯状疱疹の予防には50歳以上の方を対象としたワクチンがあります。ワクチンは帯状疱疹の発症を完全に防ぐものではありませんが、たとえ発症しても症状が軽く済むという報告があります。

参考) 1)帯状疱疹・単純ヘルペスがわかる本,法研
2)帯状疱疹のくすり、NHK きょうの健康 2017.3
3 帯状疱疹.jp
<https://taijouchoushin.jp/>

単純ヘルペスの特徴

ピリピリとした痛みを感じた後、皮膚表面に小さな水ぶくれがたくさんでき、痛みも伴うのが単純ヘルペスの典型的な症状です。症状が現れる場所によって「口唇ヘルペス」「歯肉ヘルペス」「顔面ヘルペス」「上肢ヘルペス」「性器ヘルペス」というように区別されます。水ぶくれが数個できるものから全身に発疹が広がるものまで様々です。痛みは軽く、痛痒い程度ですが、陰部の場合、痛みは特に強くなります。広範囲に症状が現れた場合、帯状疱疹との区別が困難になります。単純ヘルペスウイルスも一度感染すると感覚神経の神経節に潜り込み、過労やストレス、病気などの体調変化をきっかけに何度でも再活性化して

症状を引き起こします。再発を繰り返せばより多くのウイルスが神経節に潜伏することとなり、再発リスクが更に高まります。



山口市小郡下郷844-4

三好薬局